

新美術新聞(掲載文のまま)

中尾不二夫、空がバラ色に染まる無眼の刻。整然と几帳面な画面構成は森屋治三。赤富士の力強い稜線は鈴木忠義。北口夢石の陶芸は小粋なストライプ。黒衣の長い手が意味ありげな山下利隆。岩田康彦は金箔を散らし装飾的に。灰色の空と草原、悠久をたたえる一柳幸。ペディキアの足元艶めかしく、富岡ネム。雪解けの道路に映る木、凜然とした冬景色は早田美智子。ほか、安部清明、高木登、土屋政夫、万山年えつ子、吉井静子が印象に残った。(能)

割愛写真 森屋治三「夕風の漁港」、一柳幸「マーラー・アンコール 子供の不思議な角笛第 12 曲」



早田美智子 「雪のメタセコイア林」

第三十八回新日美展 各誌が取り上げた作品
美術界の新聞、雑誌が新日美展をどう見ているか、主要誌が選んだ作品と批評をまとめてみました。これが全てというわけではないが、新日美展を客観的に知る上で参考になると思う。各誌の写真が重複したものは一つにし、割愛した写真はその旨明記しました。(小高)



岩田康彦 「甲斐駒ヶ岳」



鈴木忠義 「富士、日本人の心 II」



富岡ネム 「跳ばない足」



北口夢石 「堆彩 条文垂壺」



山下利隆 「うたう人形師」



中尾不二夫 「山と空」

美術の窓

掲載写真は 11 点。各作品毎におよそ 100~200 文字の批評が掲載されている。かなり丁寧な鑑賞がされたと思える文章によって批評がまとめられている。作者の想いや意図をくみ取るような又はそれ以上の深い洞察がされ批評がまとめられている。評論家の絵の見方は流石するどく当を得ていると感心させられます。各々の批評は紙面の都合上割愛しました、あしからず。(小高)



張京浩 「復活」



森屋治三 「夕風の漁港」



高橋秀雄 「鐘撞堂のあじさい」



永野信 「ローマの残響」



星名昌和 「水門のある風景」